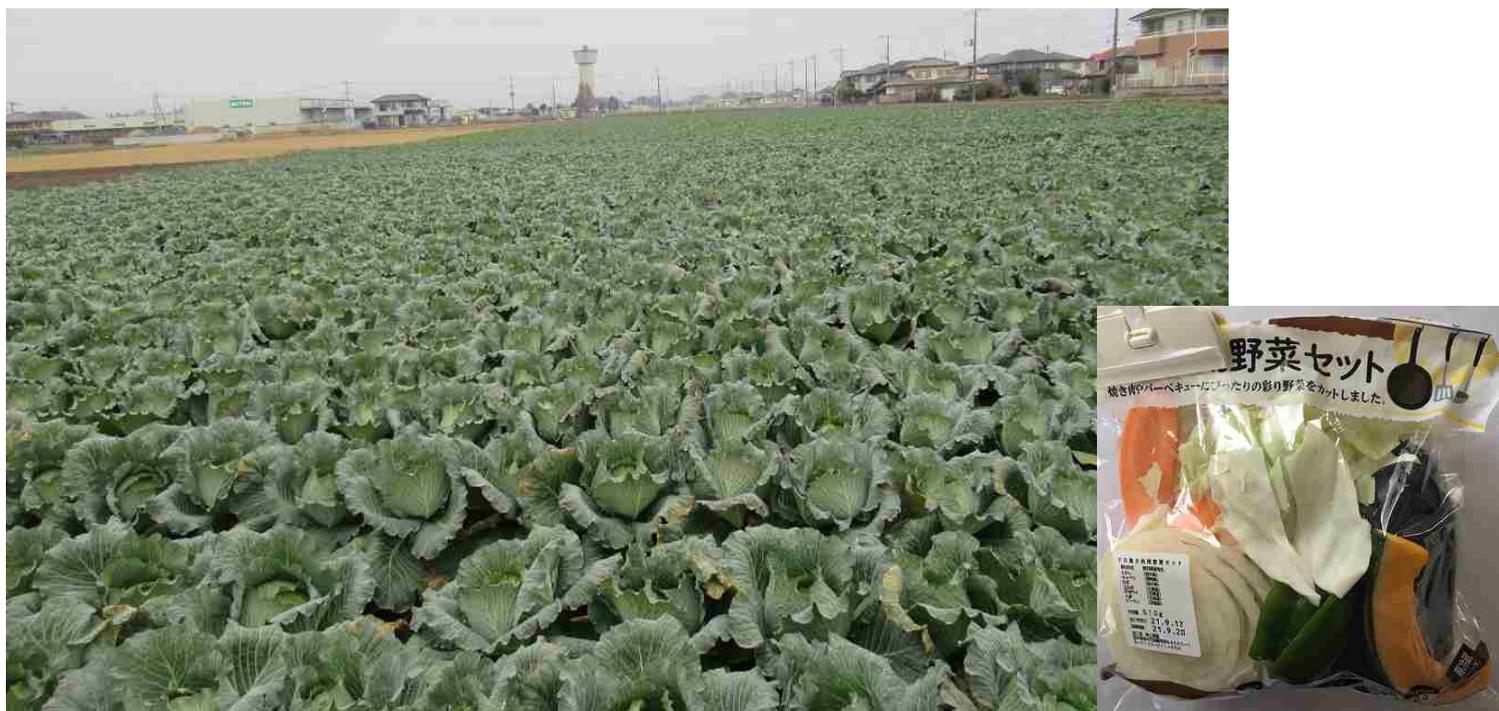


報告事例番号②

邑楽館林地域の 園芸品目生産振興

～ 加工業務用野菜の産地化推進 ～

計画年度：平成30年～令和2年



館林地区農業指導センター

1 課題設定の背景と理由

(1) 地域農業の背景

邑楽館林の主要な農業形態

米麦＋施設野菜

米麦＋露地野菜

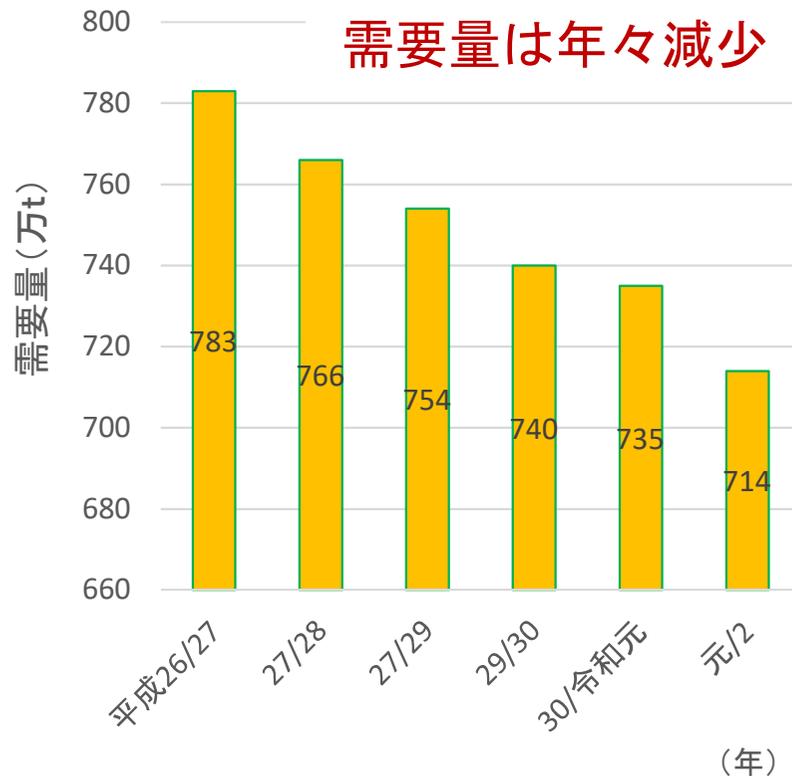


地域における土地利用型農業の課題

- 米価下落に対応できる作物の模索
- 収益の安定が見込める露地野菜等の検討
- 機械化体系の推進
- 担い手の育成

1 課題設定の背景と理由

(2) コメの情勢



主食用米の需要量の推移(全国)
(需要実績は前年7月～当年6月で算出)



米の銘柄別相対取引価格の推移
(全国平均)

農林水産省HPデータを引用

1 課題設定の背景と理由

(3) 地域の声

市場出荷の野菜は
価格が安定しない...
年によって価格が
1/5以下になることも

価格が安定し
た野菜の契約
栽培があれば
良いのに...

米価下落に
対応するため
には...



農地は余ってきて
いる。土地利用型
の大規模農業を目
指したい。

他県では、タマ
ネギ、キャベツ、
ニンジンなどで
成功しているよ
うだ

魅力ある農業を展開して産地を活
性化したい！
そうすれば担い手も育つ

機械装備を揃
えると莫大な
資金が必要...

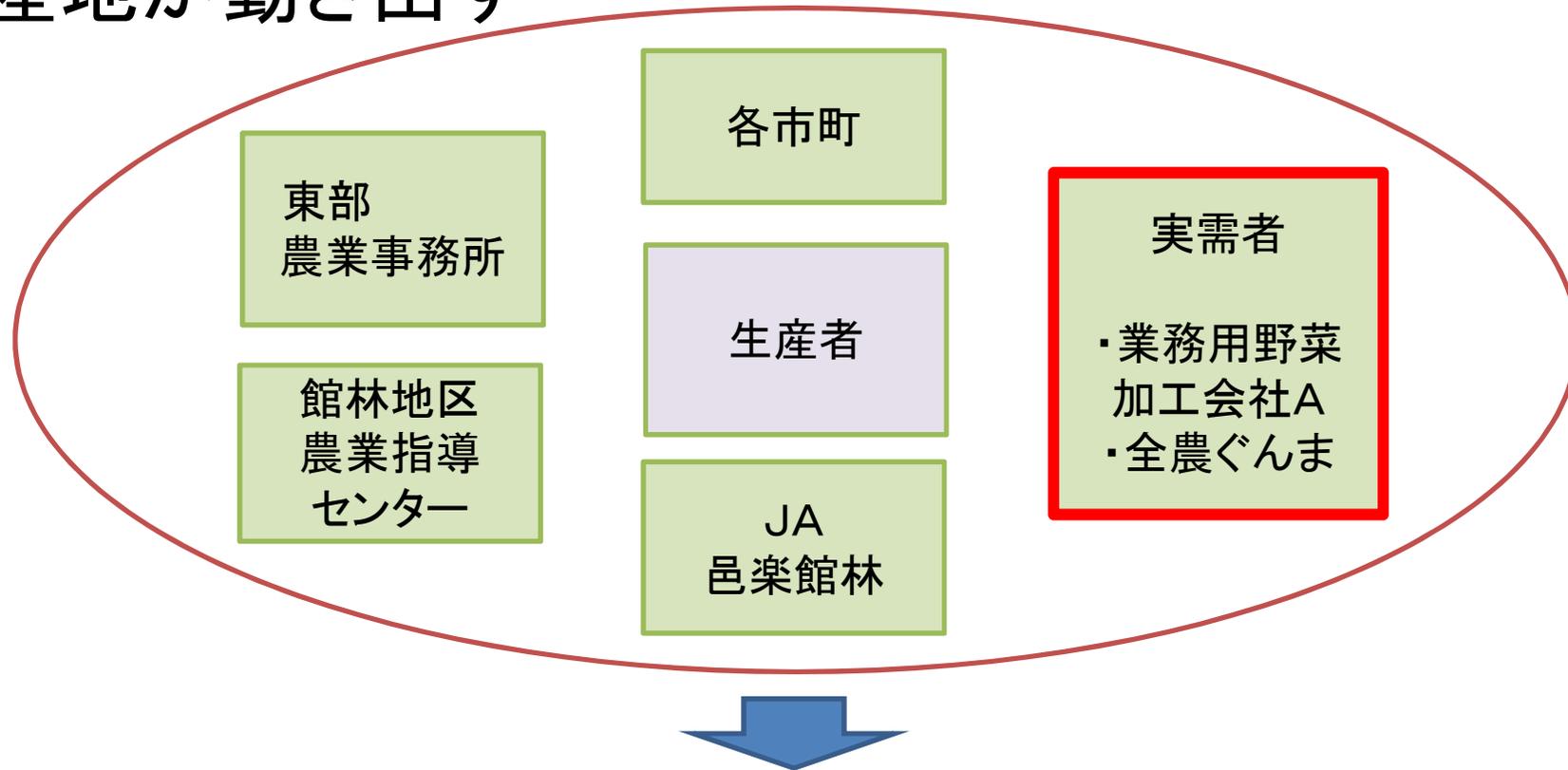
1 課題設定の背景と理由

(4) 課題設定に向けて

- ① 土地利用型の野菜導入による所得安定(実需やJAとの協力)
— 地元加工業務用野菜会社の構想の現実化 —
地元の加工業者が活用する野菜を
地元農家が生産できないか
- ② 大規模野菜経営に向けた準備(農業振興課に協力)
事業導入等による機械施設等の導入
- ③ 作業体系と販売体制の確立(実需やJAとの協力)
作物及び品種選択、作業体系の確立、品質向上
- ④ 担い手の育成と農地の有効活用(農業振興課に協力)
新たな野菜の産地づくり

1 課題設定の背景と理由

産地が動き出す



加工業務用野菜の産地化へ！ (カット野菜)

平成30年度から館林センター内の重点課題として新規に取組を開始した。

2 支援事項と解決手法

- (1) 露地キャベツ、施設レタスの導入推進と栽培技術普及
【支援対象:個人生産者、法人、関係機関】
野菜振興会議、品種検討会等の開催
- (2) 機械導入の推進
【支援対象:個人生産者、法人、市町】
営農計画達成に向けた各種事業の活用
- (3) 経営向上支援
【支援対象:個人生産者、法人、JA】
作業体系、出荷計画の支援、輪作の検討
- (4) 担い手育成
【支援対象:個人生産者、法人】
現地検討会等の開催

3 到達目標

加工業務用野菜の新規導入を柱として、野菜の生産振興と産地化を図る。

【普及計画における目標年次の姿】

目標項目	平29年 基準年	平30年	令元年	令2年 目標年
加工契約キャベツ (露地キャベツ)栽培面積 (ha)	33	35	37	40
加工契約レタス (施設レタス)栽培面積 (ha)	8	10	12	15
合計	41	45	49	55

4 活動経過及び結果

(1) 露地キャベツ、施設レタスの導入推進

【活動内容】

- ① 加工業務用野菜加工会社、関係機関との打合せ
- ② 栽培講習会、現地研修会等の実施

主な会議等の開催回数、出席回数

会議名	平30年度	令元年度	令2年度	備考
野菜振興会議 (回)	14	9	0	令和2年度は、コロナ禍の影響により未開催
定例会、出荷会議(回)	6	9	8	
現地検討会 (回)	1	2	2	

4 活動経過及び結果

(1) 露地キャベツ、施設レタスの導入推進

【活動の成果】

栽培面積の推移

品目名		平29 基準年	平30	令元	令2年 目標年	達成率 (%)	令和5年 次期目標
露地キャベツ(ha)	計画	33	35	37	※60(40)	133	95
	実績		36	59	80		
施設レタス (ha)	計画	8	10	12	15	87	15
	実績		10	12	13		
実績合計		41	46	71	93	124	—

※ 上方修正目標値、(40) は計画作成当初の目標値。

4 活動経過及び結果

(2) 機械導入の推進

【活動経過】

① 機械化の研究

平30年 スマート農業講演会

令元年 明和町：国庫事業を利用して
先進地視察研修等を開催

令2年 ライムソワー(畝立て+局所施肥同時作業機)実演会

② 事業活用による機械と施設の導入推進

【活動の成果】

国庫事業を活用した機械・施設の導入状況

機械・設備	平29年	平30年	令元年	令2年
キャベツ収穫機(台)	0	3	4	5
パイプハウス (棟)	0	176	176	176



写真：キャベツ収穫機による収穫作業

台数、棟数は累計

4 活動経過及び結果

(3) 経営向上支援

【活動経過】

- ① 栽培実証と現地研修会
- ② 作業体系の模索
- ③ 所得試算のシミュレーション



写真：栽培講習会

講習会等の開催実績

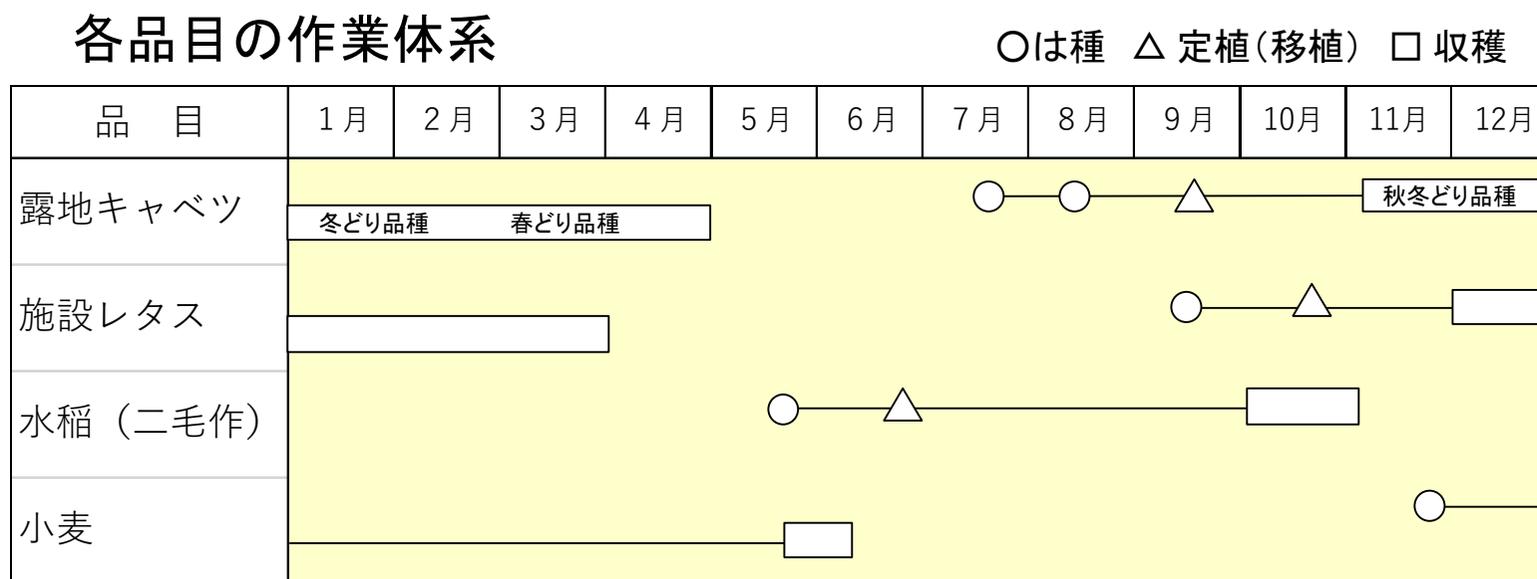
研修会等	平30年	令元年	令2年	備考
栽培講習会（回）	4	4	0	令和2年度は、コロナ禍の影響によりプリント配布(3回)。
現地研修会（回）	2	2	2	
輪作作物栽培実証 (検討作物数)	2	4	5	

➡ 講習会等により技術を普及、そして栽培面積の増加へ(スライド10)

4 活動経過及び結果

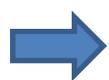
(3) 経営向上支援

【活動の成果】



加工業務用野菜＋米麦の経営体系を実証

加工業務用野菜＋畑作物(4～6月)による輪作の検討



農地の有効活用

年間を通じての作業体系の確立、雇用の活用

4 活動経過及び結果

(3) 経営向上支援

各品目の収益性(目標指標)

群馬県経営指標等を基に作成

品目	目標収量 (10aあたり)	目標所得 (円/10a)	労働時間 (hr/10a)	時間あたり所得 (円/hr)
露地キャベツ	6,000kg	206,783	71.7	2,884
施設レタス	500ケース	364,934	79.2	4,607
水稻	500kg	36,527	17.5	2,087
小麦	450kg	44,322	3.6	12,312

令和2年度産の平均収量 (10aあたり)

露地キャベツ 約4,600kg 施設レタス 約400ケース



生産者によれば、露地キャベツ、施設レタスは、水稻に比べて労働時間は多いが、単位面積あたり3倍～5倍儲かるとの声が聞かれる。

4 活動経過及び結果

(4) 担い手育成

【活動経過】

- ① 加工業務用野菜導入説明会、栽培講習会
- ② 巡回栽培指導、経営指導

【活動の成果】

- ① 新規導入者の増加、法人等組織の参画
- ② 所得向上、新たな野菜の産地作り

加工業務用野菜の導入経営体数推移

加工用野菜導入 経営体数	平29年	平30年	令元年	令2年
個人農家（件）	11	28	30	25
法人組織（組織）	6	7	10	11
合計	17	35	40	36

4 活動経過及び結果

(5) 成果のまとめ(平成29年→令和2年)

(1)-A	露地キャベツ栽培面積	33	→	80 ha
(1)-B	施設レタス栽培面積	8	→	13 ha
(2)	キャベツ収穫機械の導入	0	→	5 台
(3)-A	作業体系、収益性の検証			資料の提示
(3)-B	輪作作物の検討 (実証ほ場の設置による検討品目数)	0	→	5品目
(4)	担い手育成 (加工用野菜導入経営体数)	17	→	36経営体

加工用野菜の産地づくり 生産者の所得安定

注:(2)(4)は当初目標設定していなかった項目

5 残された課題

(1) キャベツ内部黒変症対策 (生理障害対策)

- ① キャベツ内部黒変症は発生程度によって出荷できない場合もある。



対策の確立

品種の検討
栽培法の検証など

写真: 内部黒変症キャベツを加工した様子
(黒い斑点が目立ち、商品にならない)

② 各種病害虫対策



対策実証ほの設置

5 残された課題

(2) 所得安定 → 所得向上へ

① 品種、出荷時期の分散

② 畑の有効活用模索



写真:施設レタス栽培後にトウモロコシを栽培した様子



畑の有効活用における作業体系例

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地キャベツ	[収穫]						○	○	△	[収穫]		
→ 露地レタス		●	△	[トンネル]		育苗は別ハウス						
ハウスレタス	[収穫]								○	△	[収穫]	
→ ハウスキャベツ		△		[トンネル]		育苗は別ハウス						●

○は種 △定植(移植) ◡トンネル □収穫

6 今後の対応

- 全国的に加工業務用野菜の産地化拡大
- 産地間競争が厳しくなる可能性大



- 選ばれる産地を目指して、地域全体で課題解決に取り組む



写真：理想的なキャベツの状態